「密」にならないマップづくりの要点

　壁やホワイトボードにマップを貼り、マップの前に聴取者と記入者が立つ。
　マップ作りに参加する住民は、マップから少し離れたところに横１列、または２列に、間隔を空けて並ぶ。メモをしたいという人もいるので、机を用意してもいい。住民は、発言する時に前に出てマップを指さしてもいい。

＜注意点＞
①特大のマップを用意する
　通常のマップ作りと違い、参加者は離れた所からマップを見るため、マップに書かれた名前を見えるようにするためには、特大のマップを用意する必要がある。特に高齢者は文字が小さいと見えない。
　そのため、模造紙を１畳以上の大きさに貼り合わせ、そこにマジックで大きく手書きする。道路は主なものだけ書き、省略していい。とにかく家と名前を大きく書く。離れたところからでも見えるか、確認しながら作るといい。

②マップの前が密にならないように注意する
　マップ作りをしている時、マップの前には聴取者と記入者がいるので、そこに住民が出てくると、密になりやすい。特に住民が２人、３人と出てきてしまうと余計に密になるので、１人が出てきたら他の人は戻る、または少し離れるなど、互いに気をつる。

③参加者それぞれに地図を配布
　参加者一人一人にも地図を配布することで、参加者はそれを見ながら発言するので、前に来る必要がない。